

日本言語政策学会 (JALP) 第26回研究大会 「多文化共生のまちづくりと言語政策」

1日目・6月8日(土)

午前の部 @ 吉田南1号館

WiPセッション・パブリックビューイング @01教室

- 9:30~10:00 西浦町におけるダイバーシティ教育のためのワークショップ実践
ダイバーシティ教育班(龍谷大学和代ゼミ)
- 10:00~10:30 地域活性化のための防災ワークショップ～やさしい日本語を用いて～
留学生のWS班(龍谷大学和代ゼミ)
- 10:30~11:00 外国人観光客に向けた防災意識啓発のためのパンフレット～多言語表記を用いて～
パンフレット班(龍谷大学和代ゼミ)
- 11:00~11:30 インクルーシブなキャンパス/コミュニティの実現をめざすプロジェクト(1)～障がい者の社会参加と対話の観点からの取り組み～
武蔵野大学ういちゼミA
- 11:30~12:00 インクルーシブなキャンパス/コミュニティの実現をめざすプロジェクト(2)～外国ルーツの人たちの社会参加と対話の観点からの取り組み～
武蔵野大学ういちゼミB
- 12:00~12:30 日本語を共通語とした学習者交流活動
梅本将司、ウティチャイ・ウティワットチャラナード、レ・ポ・フオン・リン、ニオ・チンチア

午後の部 @ 吉田南総合館南棟 11教室

- 12:10 Peatix受付開始
書籍販売開始
- 12:45 対面受付開始
- 13:10 開会の辞・会長挨拶
会場挨拶
- 13:30 趣旨説明

基調講演

- 13:30 多文化共生政策の過去・現在・未来～言語の観点から～
講師: 山脇浩造(明治大学)

シンポジウム

- ディスカッサント: 村岡英裕(千葉大学) 司会: 西山教行(京都大学)
個人とコミュニティのはざまに既存の価値観を覆す
「分かち合う」社会づくりのヒントに
岩城あすか(公益財団法人 箕面市国際交流協会)
- 14:35 グリーン・ツーリズム運営農家が他者を受け入れる理由:
秋田県仙北市西木町の事例
牲川波都季(関西学院大学)
- 16:35 建築計画分野からのアプローチによる多文化共生のまちづくり
松原茂樹(大阪大学)
- 多文化コミュニケーションと「態度の壁」
共生の身構えをつくる試みから
川中太輔(龍谷大学)

- 日時 2024年6月8日(土)～9日(日)
- 会場 京都大学吉田キャンパス
吉田南1号館・吉田南総合館・人間環境学研究所
<https://www.h.kyoto-u.ac.jp/access/>
- * 京阪電車「出町柳駅」から徒歩20分
- 参加費 会員・大学院生 1,000円 / 非会員2,000円 / 学部生無料
- 主催 日本言語政策学会 <http://jalp.jp/wp/>
- 共催 西山教行研究室

発表順などプログラムは変更される可能性があります。
最新情報は上記学会HPをご覧ください。
◆ お問い合わせ jalp.taiko@gmail.com

2日目・6月9日(日)

@ 吉田南総合館北棟

口頭発表

	A会場 (@3A教室) 司会① 1-2 大山万寿 司会② 3-4 サウケン・ファン	B会場 (@3B教室) 司会① 1-3 藤井久美子 司会② 4-5 杉本篤史	C会場 (@3C教室) 司会① 1-3 岡本能里子 司会② 4-5 下絵津子	D会場 (@3D教室) 司会① 1-3 上村圭介 司会② 4-5 柿原武史	E会場 (@33教室) 司会① 1-2 芹川佳子 司会② 3-5 西山教行	F会場 (@34教室) 司会① 1-3 山川和彦 司会② 4-5 村田和代
① 9:30 ～		[B-1] 多職種連携による外国人就労者へのサポート体制の可能性: J1 輸出における支援組織側の調査からの考察 サウケン・ファン、村岡英裕	[C-1] 外国につながる子どもと若者の母国語・母語・継承語使用 - アンケート調査の結果に見る多様なことを学ぶ場の現状 安念真衣子	[D-1] 唐辛子우초와 모든 음식과 더불어, 그리고 작지만 매우 다양한 언어정책에 관련된 다양한 언어정책 관련자들의 다문화共生使用とその可変性 吉田さち、松本和子	[E-1] 多文化共生の理念に根拠した地域日本語教育の考察 - 行政主体の地域日本語教育施策の今後に向けて 千葉月香、米勢治子	[F-1] 地方都市における多文化共生の満足度を上げるまちづくり - 越前市の例から 鈴木梓
② 10:00 ～	[A-1] 国フェスに見る「名付けられた言語」の解体と出現 - 現象学としてのトランスランゲージングへ 猿橋順子、飯野公一、木村太輔	[B-2] 介護施設利用者の愚痴に対する外国人介護職員の反応 釜田友里江	[C-2] 外国人散居地域における避難民の子どもへの日本語教育 - 日本語教師の抱えるジレンマとそれを乗り越える方策 村田あさの、佐藤香織	[D-2] 現代ペラレーン語における文字使用・ダイグラフィア象徴的価値を考察 清沢紫織	[E-2] 学生の提案から生まれた「国際共修」授業 - 龍谷大学の事例紹介 村田和代	[F-2] 産官学民でまちを考える活動におけるアクターの「専門性」 - 協働省察による試みから 佐野香織、三代純平、福村真紀子
③ 10:40 ～	[A-2] 多文化共生社会における地域コミュニティ活動に関する一考察 - 日本在住イグル人を中心に Abudurexiti ABUDULETIFU	[B-3] 多文化共生まちづくりに向けた外国人労働者支援活動 - Y 市の事例を通じた探索的研究 包高桂	[C-3] 外国人児童生徒の母語教育における「欠損」と「資源」の多文化主義的考察 奴夫妻駿介	[D-3] スロバキア東部のルシノ語をめぐる言語政策と住民意識の乖離 村上武則	[E-3] 「やさしい日本語」理念の検討の試み - オーストラリアの Plain English/Easy English 参照をふまえて - 寺井悠人、五十嵐小優粒	[F-3] 「多文化共生のまちづくり」と「ことば」 富谷玲子
④ 11:10 ～	[A-3] Multicultural Coexistence Policy in International Resort: the case of Niseko area 新海西/Akane SHINKAI	[B-4] コミュニケーションに対するAbleismと身体への介入 中島武史	[C-4] 日本政府の留学支援策のディスコース分析 - 「共生社会」の位置づけに着目して 浪貝美紗	[D-4] アイヌ民族のニーズを踏まえたアイヌ語政策の策定に向けて - 北海道の言語景観におけるアイヌ語使用について - イヤス・シリヤ/Silja IJAS	[E-4] New Zealand のフィールド調査からの日本語政策への提言 - 共生に向けた言語教育を探索し実践する非日本国籍の公立学校国語教師の自己エスノグラフィを通して 梁梨花/YANG Lihwa	[F-4] 公共図書館の多文化サービスにおける連携の効果: 静岡県立御幸町図書館および焼津市立津田図書館での事例をもとに 那珂元
⑤ 11:50 ～	[A-4] Comparative Analysis of Linguistic Landscape in Gubei and Ikebukuro: Focusing on Language Policy in Multicultural and Multilingual Communities 劉昊/LIU Hoo	[B-5] 日本語の公用語化: 障害者の権利条約から読み解く当事者が中心となる言語計画に向けて 高嶋由布子	[C-5] 日本の中学生、高校生の実験場から見た英検の広がり: 英検模擬紙(1963-2001)の合格体験記を基に 孫工季也	[D-5] 八重山語を用いた店舗名符の実態 - 新しい地域言語感の形成の視点からの考察 山川和彦、伊集崎枝、伊集崎奈	[E-5] 日本語教育と複言語教育の機軸性について - Kanisibai プロジェクトをふまえて - 小柴裕子	[F-5] 防災無線における「やさしい日本語」の有効性 幡手千華

ポスター発表

- ポスター会場 (@36教室前スペース)
コアタイム:
[P-1]~[P-5] 9:30~10:35
[P-6]~[P-10] 10:40~11:45
- [P-1] 外国ルーツをもつ生徒がいかにして女子大生入学に至ったか - 入学1年目春休みのインタビューから
山元一晃、加藤林太郎
 - [P-2] 多文化共生のまちづくりに資する「定住外国人のよみかき研究」
福村真紀子、福永由佳
 - [P-3] 多文化共生キャンパスの取り組み - 当事者の視点から
木下謙朗
 - [P-4] 日本語教育とロシア語教育は日露友好に貢献できるか - 学習者へのアンケート調査からの考察 -
松井一美、向井大樹、江口満
 - [P-5] 自治体指定ごみ袋からみる多言語景観
山田青沙
 - [P-6] 台湾の新住民語教育における教師養成と教育実践で得られるもの
谷口龍子
 - [P-7] 地域日本語教育の政策的取り組みにおけるエビデンスについて
神吉宇一
 - [P-8] 多様化の進む社会に必要な教育として - フェルトセンスに注目した自己理解を出発点として -
齋藤和恵
 - [P-9] 異文化接触による大学生の言語使用意識の変容 - 長期留学経験者のインタビューをもとに -
高民定、吉野文、西住奏子
 - [P-10] 言語博物館・言語展示の歴史・現状・将来性: 博物館言語学の構築に向けて
LU Zican

ポスター自由掲出時間(～12:20)

学会賞授賞式・総会 @ 31教室 昼食持参でご参加ください

パネル発表

- 13:05 移動を経たエスニック文化の<継承>と言語政策 (@31教室)
・ 日蒙のパキスタンフェスティバルから<継承>を再考する 山下里香
・ 保護者主体の継承語学習コミュニティでは何が継承されているのか - ードパイの日本語サークルを事例として 谷口ジョイ
・ 反発の語りから<継承>支援の課題を考える - ウズベキスタンのタタールの戸惑いと反発を事例に 櫻岡瑞希
・ 渡日百年のファミリー・ストーリーに現れる言語継承 - 民族文化を生業とする在日コリアン家族の実践と語りから 猿橋順子
- 14:40 2025年大阪・関西万博をめぐる言語問題 - 未来の多言語社会の実験場の課題を考える (@31教室)
柿原武史、白山利信、岡本能里子、上村圭介、下村朱有美、長谷川由起子、藤井久美子、山川和彦、ヤン・ジンスク、中谷潤子
・ 観光とインバウンド 白山、長谷川、中谷
・ 過去の大規模イベントと多言語対応 藤井、ヤン、柿原
・ やさしい日本語やピクトグラム、先端技術の可能性 岡本、下村

- 書籍販売 (@36教室前)
- ・ 明石書店
 - ・ くろしお出版
 - ・ Multilingual Matters(ユリカ・プレス)
 - ・ 「社会言語学」刊行会
<https://syakaigengo.wixsite.com/home/2021gen-goseesakugakai>

参加受付用 Peatix
<https://jalp26.peatix.com/>



手話対応